

## 彙 報

会 長 松 本 克 己

### 平成5年度第1回常任委員会

日 時：平成5年4月17日（土）午後1時半～5時半

場 所：三省堂出版局

出席者：松本克己（会長）、角田太作（事務局長）、井出祥子、荻野綱男、崎山理、佐藤昭裕、長嶋善郎

オブザーバー：上野善道・土田 滋（会計監査委員）、佐々木文彦（大会運営委員長代理）

### 議 事

（1）平成4年度決算について

決算報告・監査報告があり、質疑が行なわれた。

（2）平成5年度予算について

予算案を審議し、具体案を作成した。

（3）第106回大会（平成5年度春季大会）について

講演者・研究発表者などの大会の詳細を決め、プログラムを決定した。

（4）第107回大会（平成5年度秋季大会）について

愛媛大学で10月23～24日に開催する予定である。

（5）その他

〈あ〉会長の所属の変更について

平成5年4月から会長が静岡県立大学に移ったが、事務局長はそのまま角田氏が継続してつとめることになった。

〈い〉平成4年度の「言語研究」の刊行費の超過について

凸版・版下・特注母型・母型鑄込などで多額の費用を要した論文があり、

結果的に刊行費が大幅に予算超過になってしまった。これについては、それぞれの執筆者に3万円を超える分の半額を請求することにした。

〈う〉 三省堂内の事務局について

三省堂から、平成6年3月限りで事務局を辞退したいという申し入れがあった。また、現在の事務職員の入貝氏からも平成6年3月限りで退職したいという申し入れがあった。このような事態になれば、事務体制の大幅な変更と会則の一部改訂が必要となる。そこで、今後言語学会の運営をどのようにしたらいいかについて話し合い、現在の仕事の分担の正確な把握と、学会事務センターへの事務委託の可能性の打診などを含めて、早急に対策を講ずることになった。

平成5年度第1回委員会

日 時: 平成5年6月5日(土) 午前10時～午後1時

場 所: 明海大学 講義棟3階 大会議室

出席者: 松本克己(会長), 竹内和夫, 樋口康一(代理塚本秀樹), 縄田鉄男, 井出祥子, 井上和子, 大津由紀雄, 荻野綱男, 奥津敬一郎, 尾上圭介, 菊地康人, 城生佰太郎, 角田太作, 長嶋善郎, 原口庄輔, 湯川恭敏, 小泉 保, 清水克正, 影山太郎, 近藤連夫, 佐藤昭裕, 柴谷方良, 庄垣内正弘, 杉藤美代子, 徳川宗賢, 西光義弘, 林 栄一, 藪 司郎, 吉田和彦(以上29名)

委任状: 33名

オブザーバー: 土田 滋・上野善道(会計監査委員)・大東百合子(大会委員長)

議事に先立ち、大会運営委員長大東百合子氏から挨拶があった。また、本学会評議員関本 至氏がなくなったことについて会長から報告があり、全員で黙禱を捧げた。平成5年4月から会長の勤務先が変更になったことについて会長から報告があった。

議 事

- (1) 平成5年度第1回常任委員会の報告があった。
- (2) 平成4年度の決算報告があり、質疑の上、了承された。(別表1参照)

これは、1993年4月17日、会計監査委員土田 滋・上野善道両氏より適正であると認められたものである。

(3) 平成5年度の予算を決定した。(別表2参照)

(4) 第107回大会(平成5年度秋季大会)については、10月23日(土)から24日(日)に愛媛大学で行なわれることが決定された。これに伴い、愛媛大学の塚本秀樹氏(樋口康一大会委員長代理)から挨拶があった。

(5) 日本言語学会事務局の移転について

会長から、平成6年3月で事務局を三省堂から移転するという報告があり、その対策をめぐって意見交換が行なわれた。この問題についての検討のために、会長、事務局長、関東在住の常任委員、会計監査委員、それに「言語研究」編集委員長からなる「事務局対策委員会」を編成し、事務局を含めた学会の運営体制について早急に対策を講ずることになった。

(6) その他

〈あ〉 言語学用語集の作成について

会長から言語学用語集検討委員会の経過について報告があり、その後の学術審議会学術用語分科会言語学用語専門委員会での経過について小泉保氏から報告があった。なお、本委員会で選出された言語学用語集検討委員会は、これをもって正式に解散することになった。

〈い〉 日本学術会議について

言語学会の委員の調書を取りまとめ、日本学術会議に対して送付した。なお、学術会議の会員の改選の時期が近づいており、委員会委員によって、平成5年末頃に学術会議の推薦人の郵送投票が予定されていることが報告された。

〈う〉 井上和子氏から CIPL 負担金をドル建てでなく円建てにする提案があった。また、徳川宗賢氏から、円高によって海外会員に影響があるので言語学会の会費について検討してほしいという提案があった。

(別表1) 平成4年度 日本言語学会決算

自平成4年4月 至平成5年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	11,313,526	1 刊 行 費	7,236,884
C 雑 誌 売 上	1,714,055	2 編 集 費	400,000
D 文 部 省 補 助 金	480,000	3 学 会 事 務 セ ン タ ー 委 託 費	2,763,817
E 預 金 利 子	18,640	4 大 会 関 係 費	954,571
F 寄 付 金	164,057	5 委 員 会 費	100,000
G 雑 収 入	61,800	6 常 任 委 員 会 費	258,048
		7 C I P L 負 担 金	58,650
		8 選 挙 関 係 費	0
		9 通 信 費	148,980
		10 事 務 費	367,820
		11 設 備 費	0
		12 事 務 局 職 員 謝 金	720,000
		13 記 念 事 業 費	1,068,484
		(言語研究100号記念号)	
		14 選 挙 関 係 等 準 備 積 立 金	700,000
		15 予 備 費	0
		16 雑 費	0
収 入 合 計	13,752,078	支 出 合 計	14,777,254
A 前 期 繰 越	1,696,511	次 期 繰 越	671,335
計	15,448,589	計	15,448,589

## ◇ 支 出 内 訳

1) 刊行費	102号	割付・校正料	434,160
	264 p.	印刷費	2,957,000
		小計	3,391,160
	103号	割付・校正料	518,724
	302 p.	印刷費	3,327,000
		小計	3,845,724
		合計	7,236,884
3) 学会事務センター委託費	業務委託費		1,881,547
	送料, コピー代, 通信費等		882,270
	(会員カードの印刷費含む)		
		計	2,763,817
4) 大会関係費	第104回	プログラム版下作成料	191,600
		プログラム・出欠葉書印刷費	87,035
		大会費	180,000
		小計	458,635
	第105回	プログラム版下作成料	181,000
		プログラム・出欠葉書印刷費	84,936
		大会費	230,000
		小計	495,936
		合計	954,571
13) 記念事業費			
	『言語研究』主要目次・索引	第1号～第100号 (94 p.)	
		割付・校正・照合・逆引等	324,000
		印刷費	744,484
		計	1,068,484

(別表2) 平成5年度 日本言語学会予算

自平成5年4月 至平成6年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	11,400,000	1 刊 行 費	5,500,000
C 雑 誌 売 上	1,200,000	2 編 集 費	400,000
D 文 部 省 補 助 金	520,000	3 学 会 事 務 セ ン タ ー 委 託 費	2,900,000
E 選 挙 関 係 費	700,000	4 大 会 関 係 費	1,000,000
(積立)		5 委 員 会 費	150,000
F 預 金 利 子	10,000	6 常 任 委 員 会 費	300,000
C 雑 収 入	0	7 C I P L 負 担 金	80,000
		8 選 挙 関 係 費	700,000
		9 名 簿 作 成 費	1,000,000
		10 通 信 費	200,000
		11 事 務 費	500,000
		12 設 備 費	0
		13 事 務 局 職 員 謝 金	960,000
収 入 合 計	13,830,000	14 予 備 費	700,000
A 前 期 繰 越	671,335	15 雑 費	111,335
計	14,501,335	計	14,501,335

## 第106回大会

期 日 平成5年6月5日(土)・6日(日)

会 場 明海大学

## 第1日(6月5日)

開会の辞 午後1時30分より

公開講演 漢字の言語学を考える

林 四郎

(明海大学)

東アジアの新出言語をめぐって

西田 龍雄

(学術情報センター)

会員懇親会 午後5時30分～7時30分

## 第2日(6月6日)

研究発表 午前10時～12時20分

## ◦ A 会場

(A 1) 10:00～ 話し手の近くにある事物を指す指示詞  
that に関する一考察 竹田 完次

(A 2) 10:30～ Tough 構文の認知言語学的考察 鍋島 弘治朗

(A 3) 11:20～ 英語関係節における空演算子の適切な  
扱いについて 近松 明彦

(A 4) 11:50～ Neg projection in Japanese 北元 美沙子

## ◦ B 会場

(B 1) 10:00～ 奄美大島瀬戸内町に進行中の音調変化 松森 晶子  
——2つの高音調のたどる変化の一例として——

(B 2) 10:30～ 日本語の言い間違い 山南 彩子

村杉 恵子

(B 3) 11:20～ 日本語の受け身文について 高見 健一

(B 4) 11:50～ Territories of information and Japa- 大野 喜代治  
nese demonstratives

## ◦ C 会場

(C 1) 10:00～ ヒンディー語の動名詞句における語順 山部 順治

制限

- (C 2) 10:30～ 印欧祖語における amphikinetic type の生成過程 吉田育馬
- (C 3) 11:20～ 現代チベット語ラサ方言の動詞述語と「時」の問題 星 泉
- (C 4) 11:50～ アミ語ファタアン方言における「対象焦点形」の用法 月田尚美

研究発表 午後1時40分～3時10分

・ A 会場

- (A 5) 1:40～ 日本語の WH-数量詞の LF における抜き出しとその理論的帰結 木村宣美
- (A 6) 2:10～ 格構造と論理構造との間での変換による多様な文の生成 安藤司文

・ B 会場

- (B 5) 1:40～ イロニーの言語・認知的制約について 鷲山眞澄
- (B 6) 2:10～ 韓国と日本の主婦に見られる聞き手呼称法の比較 申恵 璟
- (B 7) 2:40～ 日本語と韓国語の職場における聞き手敬語の対照研究 荻野綱男  
金 東俊  
梅田博之  
羅 聖淑  
盧 穎松

・ C 会場

- (C 5) 1:40～ グイ語音韻論 中川 裕
- (C 6) 2:10～ 満州語文語における連語について 山崎雅人
- (C 7) 2:40～ アクセントと方言間差異——スクマ語の場合—— 湯川恭敏

閉会の辞

## ◇ 受贈図書リスト (平成4年12月1日～5年4月30日)

- いのちと環境 (山口大学教養部・「いのちと環境」研究会 1993)
- 英語文化研究 第6号 (独協大学大学院外国語学研究科 1993)
- 大阪大学文学部紀要 第33巻 第1分冊 (大阪大学 1993)
- 神奈川大学言語研究 No. 15 (神奈川大学言語研究センター 1992)
- 紀要 (言語・文学編) 第25号 (愛知県立大学外国語学部 1993)
- 計量国語学 18巻7号-1992, 18巻8号-1993 (計量国語学会 1992～93)
- 言語科学 第28号 (九州大学言語文化部言語研究会 1993)
- 言語の世界 Vol. 9 No. 1・2-1991, Vol. 10-1992 (言語研究学会 1991～92)
- 言語の発展 ——国際語エスペラントの観点から——  
(フランソワ・ロ・ジャコモ著 水野義明訳) (大村書店 1992)
- 現代日本語構文法 (下川 浩著) (三省堂 1993)
- 国語学 171-1992, 172-1993 (国語学会 1992～93)
- ことばのアスペクト 第6号 (京都産業大学言語研究会 1992)
- サビアの言語論 (平林幹郎著) (勁草書房 1993)
- 宗教研究 294 第66巻 第3輯-1992  
295 第66巻 第4輯-1993 (日本宗教学会 1992～93)
- 手話学研究 Vol. 12 (日本手話学会 1991)
- 専修 語学ラボラトリー論集 第21号 (専修大学LL研究室 1992)
- 武庫川女子大学 言語文化研究所年報 第4号 (武庫川女子大学 1992)
- 大東文化大学英米文学論叢 No. 24 (大東文化大学英文学会 1993)
- 朝鮮学報 第百四十五輯-1992, 第百四十六輯-1993 (朝鮮学会 1992～93)
- 通信 第76号-1992 第77号-1993  
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1992～93)
- 展示会ガイド No. 25 (コンベンション・フォーラム 1993)
- 東海大学紀要: 留学生教育センター  
第12号-1992 第13号-1993 (東海大学 1992～93)
- 東方学 第八十五輯 (東方学会 1993)

- 東方学会報 No. 63 (東方学会 1992)
- 東北大学言語学論集 第2号 (東北大学言語学研究会 1993)
- 東北大学文学部日本語学科論集 第2号  
(東北大学文学部日本語学科 1992)
- 東洋音楽学会会報 第27号 (東洋音楽学会 1993)
- 東洋学報 第74巻 第1・2号 (東洋文庫 1993)
- 独協大学外国語教育研究 第11号 (独協大学外国語教育研究所 1993)
- 日本学術会議月報  
第33巻12月号-1992, 第34巻1月~3月号-1993  
(日本学術会議広報委員会 1992~93)
- 日本語教育通信 第13号, 14号 (国際交流基金日本語国際センター 1993)
- 日本民俗学 192 (日本民俗学会 1992)
- 広島女学院大学英語英米文学研究 第2号  
(広島女学院大学文学部英米文学科 1993)
- 閩南語音韻論 (堀 博文著) (北海道大学文学部言語学研究室 1993)
- プロピレア 第4号 (ギリシア語・文学研究会 1992)
- 法政大学文学部紀要 第38号 (法政大学文学部 1992)
- みんぱく 12月号-1992, 1月~4月号-1993  
(国立民族学博物館 1992~93)
- 明海大学外国語学部論集 第4集  
(明海大学外国語学部紀要編集委員会 1991)
- 山口大学教養部紀要 人文科学篇 第26巻 (山口大学教養部 1992)
- 山口大学文学会志 第43巻 (山口大学文学会 1992)
- 立正大学国語国文 第29号 (立正大学国語国文学会 1993)
- 立命館経営学 第31巻 第3・4号 (立命館大学経営学会 1993)
- 立命館言語文化研究 4巻2・3合併号-1992 4巻4号-1993  
(立命館国際言語文化研究所 1992~93)
- 論集 51 (神戸大学教養部 1993)
- Acta Asiatica 63-1992 64-1993 (東方学会 1992~93)

- ArOr Vol. 60 4 (Academia Praha 1992)
- Bulletin No. 137 No. 138 (The Linguistic Society of America 1992)
- Bulletin Vol. LVI Part 1  
(The School of Oriental and African Studies 1993)
- Gender and Authority (Elisabeth D. Kuhn)  
(Gunter Narr Verlag 1992)
- Kotodama 〈言霊〉 (染谷勝彦著) (勁草出版サービスセンター 1993)
- Language Vol. 68 No. 4 (The Linguistic Society of America 1992)
- Language Issues in Nepal (Sueyoshi Toba)  
(Samdan Books & Stationers 1992)
- Linguistic Research No. 10 (東京大学文学部英語学研究会 1992)
- Mita Working Papers in Psycholinguistics Vol. 3 (Yukio Otsu)  
(慶応義塾大学言語文化研究所 1993)
- Naše řeč 5  
(Academia nakladatelství Československé akademie věd 1992)
- Philologia 24 (三重大学英语研究会 1992)
- Talk, Thought, and Thing (Kenneth L. Pike)  
(Summer Institute of Linguistics 1993)
- Vocabulaire Lingala Classifié (Shigeki Kaji)  
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1992)

---

現代ギリシア語研究で著名な本学会評議員関本 至氏は、平成5年5月1日、  
心不全のため死去されました。謹んで哀悼の意を表します。

---

◇ 本誌は、文部省平成5年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付  
を得て刊行されたものである。